

株式会社丸中

産地の将来を背負い、
国産タオルの世界展開めざす海外
発注可
メイド
イン
ジャパン
試作可
小ロット
量産
対応

タオルを製造する自社工場

主な事業内容

タオルやタオル関連製品の
企画・製造・販売

主な取引先(納入先)

一般消費者、大手ECモール、
大手量販店、海外EC販売事業者

主な製品

タオル、ケット、ストール、
靴下、ベビー雑貨業務
内容国内大手の各ECモールで
トップの販売

丸中は、歴史を誇るタオルの産地・泉州では後発の昭和34年創業。もともとは地域の同業と同様、名入りの販促用、贈答用タオルを卸問屋から受託生産していた。年始挨拶用などの需要集中期と閑散期の差が著しく、景気に左右されやすい不安定な事業。平成16年に就任した中道哲社長は、卸からの受注を待つのではなく「新しい企画の商品を作ろう」と、自ら企画・提案に着手。平成19年にはオリジナルブランドでEC市場に打って出た。当初は成功するか半信半疑だったという直販事業だが、現在は全面的に移行。国内大手の各ECモールで確固たる地位を確立するまでに成長した。

強み
ものづくり
パートナーとの連携

企画から製造・販売までを垂直統合したタオルのSPA（製造小売業）だ。消費者ニーズに即応し、需要予測と戦略的な商品投入で生産平準化を図っている。タオルは1枚製造するのに、およそ200人が関わるとも言われる分業体制。協業する地域の縫製業者は

個人や零細が多く、高齢化が進んで事業の先細りも見える。中道社長は「このままではタオルを作れる環境がなくなる」との危機感を抱き、地域に安定した仕事を供給することで、地場産業の生き残りを支えていく構え。連携は他のタオル産地にも広がる。中道社長は「仲間とともに日本製タオルを売っていききたい」と意欲を燃やす。

海外
販売
リアル店舗への販路拡大、
海外展開も視野

自社でリアル店舗を運営するほか、ECでの評判を受けて流通各社から引き合いが多く寄せられ、量販店での取り扱いも増えてきた。店頭ではECナンバーを訴求し、ブランド認知度を高めてECに誘導することで相乗効果を狙っている。中道社長は「違う生活様式の人たちにも、日本のタオルの良さを知ってもらいたい」と話し、海外展開を視野に入れる。すでに台湾では立ち上げ時から携わった現地代理店が成長した。コロナ禍で世界情勢の変化があり、想定から軌道修正を迫られる中ではあるが、香港やマレーシアが候補。業態をEC中心に転換してから15年。これからの「攻めの経営」を続ける構えだ。

社長あいさつ



代表取締役

中道 哲さん

「ヒオリエ（日織恵）」ブランドで、日本製タオルを中心とした生活雑貨直販店を運営しています。タオル以外にも取り扱いを広げており、暮らしを豊かにする商品を集めるため、志を同じにするメーカー様との連携が重要と考えています。ものづくりを軸に、これからもスピード感を持って挑戦していきます。

主な保有設備

- エアジェット織機
ZAX9200iほか
津田駒工業製 19台
- 自動ヘム縫製機
BEST-IVS(クロスヘム機)
バルダン製 2台

全国
03

ISO 9001

住 所／〒598-0024
泉佐野市
上之郷1943
T E L／072-467-0641
F A X／072-468-0640
創 業／昭和34年4月
設 立／昭和42年4月
資本金／1,000万円
従業員／120名



ギフトボックスへの梱包



タオルの縫製作業


<https://www.marunaka1959.co.jp/>